7月21日（火曜日）「愛の見本」

【新改訳 2017】

ホセア書　1•1－11

「‥‥‥主はホセアに仰せられた。『行って、姦淫の女をめとり、姦淫の子らを引き取れ。この国は主を見捨てて、はなはだしい淫行にふけっているからだ』」（2 節）

きょうから、ホセア書を通して旧約聖書に見られる神の愛を覚えましょう。年代は 1 節からわかるように、BC783 年から 686 年ごろ、イスラエルは選民でありながら、偶像を礼拝したり、敵と妥協したりして、主のみこころをしばしば痛めていました。その中で神の驚くべき愛が、預言者ホセアを通して現されていたのです。

文字通りの姦淫も、神以外のものを拝む霊的淫行も、神が最も忌み嫌われる罪です。それにもかかわらず、ホセアに姦淫の女と結婚するように命じているのは、神がどんなに罪深い国民をも愛し、罪から救い、ご自身との正しい関係に入れようとしておられるかを示しています。このような愛で私たちも救われたことを感謝しましょう。

～祈り～

主よ。あなた以上に他のものや人を愛することがないようにお助け下さい。また、このように弱いものをも愛してくださるあなたの御名をほめたたえます。

【学びのために】

ホセア書は、旧約聖書の 12 小預言書の 1 つ。預言者ホセア（BC760-723 ごろの活動）の書。ホセアの家庭生活の体験を、イスラエルの宗教的な腐敗に合わせて象徴的に描いているものです。彼らの背教と退廃にもかかわらず、神はこの民を愛しておられることを説いています。